

子どもの 「新しい生活」 を支える



指導員からの アドバイス

学童保育へようこそ！
はじめて学童保育に出会う
子ども・保護者の方のなかには、
「学童保育ってどのようなところだろう」
「学校と学童保育、新しい生活がはじまるけれど、
わが子は大丈夫かな」など、
期待を抱きつつも、
緊張や不安を感じている方も
いるのではないのでしょうか。
ここでは、新しい生活をスタートさせる
子どもたち・保護者の皆さんへ、
指導員からのアドバイスを紹介します。

学童保育に
通いはじめる
ときには……

小学校に通いはじめてから、「自分は学童保育へ行くことになっていくけれど、おうちに帰る友達もいること」に気づき、とまどう場



合もあるかもしれ
ませんが。子ど
も自身が学童保
育へ通う必要性
を理解できるよ
う、「お母さん・お父さんが働い
ている間、学童保育で安全に楽し
く過ごしてほしいこと」を、子ど
もにいいねいに伝える機会をぜひ
設けてください。

子どもが学童保育へ通っている
ことは、小学校の先生にも伝えて
おきましょう。

学童保育からの帰宅は、お迎え
を義務づけているところ、子ども
だけで帰るところなど、さまざま
です。保護者のお迎えがない場
合にはぜひ、「自宅から学童保育」
「自宅から学校」、そして「学校か
ら学童保育」「学童保育から自宅」
までの道順を、事前に子どもと一
緒に歩いて確認し、安心して通い

つづけられるようにしておくことをおすすめします。

保護者の出勤時間が子ども登校時間より前だったり、長期休みの学童保育の開所時間前に保護者が出勤するなど、朝、保護者が子どもより早く家を出る場合もあるかもしれません。その際には、「子どもが一人で過ごすのに慣れることができるよう、事前に何度か練習するなどの機会を設ける」「やるべきこと・やつてはいけないことを明確にして伝えておく」ことが大切です。



登校班などで学校へ向かう場合もあるでしょうから、可能でしたら、同じ班のご家庭に事情を伝えて、協力を得られるようにするとよいと思います。

小学生になると、自分で判断して行動することを求

められる機会がそれまでより増えますし、行動範囲も広がります。子ども自身がこまったときに「こまった」と言える、安心と信頼に支えられて過ごすことができる環境づくりが大切です。

「今日どうだった？」
「うん……」

四月中は、「必ず指導員さんについて言つたよ」など、たくさんのごことについて子どもに伝言を託すなどは、大きな負担になることがあります。連絡事項は、連絡帳に記したり、子どもが学童保育へ行く前に電話をするなどして、保護者から指導員へ直接伝えることをおすすめします。



「今日は学校へは行くけれど、学童保育はお休み」など、普

段とは異なる行動をすることになる場合は、行き違いを防ぐために、学童保育と小学校の両方に「連絡ください」。

「うちの子、学校での出来事を尋ねても、あまり話してくれないのですが……」との相談を受けることがあります。これは、子どもが「学校」↓「学童保育」↓「家庭」という流れで過ごすうちに、学校でのことはあまり思い出せなくなったり、直前に楽しいことがあって、それより前のことは忘れてしまった……という場合もあるようです。



また、学童保育では、異なる年齢・発達の子どもたちが一つの空間で過ごします。一年生の子どもにとつては、上の学年の子どもたちが交わす会話やその言葉も、保育園・